

令和2年度

不動中学校

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

一人一人が輝き、自尊感情を高めるために、主体的・対話的な深い学びを実現するための授業改善から、確かな学力を育成する。

①「基礎的・基本的な知識・技能の定着」
②「家庭学習習慣の確立」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	吉成昭彦(校長)	岩佐隆義(教頭)
		吉田則子(教務・研修)	清水英伸(3年主任)
		佐藤康徳(2年主任)	齋藤雅紀(1年主任)
	篠原 明子	小倉裕美子(特支コーディネーター)	

校長

吉成 昭彦



【各校の取組状況の把握について】

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職による授業参観や教員による授業改善のための振り返り等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○「漢字を読む」など基礎的な内容は、成果を上げており、式の計算等の数学において基礎的な技能を上げようと努力できる。 ●各教科、基礎的・基本的な知識技能が不十分なまま、授業を受ける生徒もいる。	・朝学習や家庭学習で復習に取り組むことができる。 ・言葉に親しみ、自分の考えを整理して記述したりすることができる。	・スモールステップでの小テストの実施と、小テストに向けての個々への支援 ・授業ノートの確認とノート指導の実践 ・モジュール学習を取り入れた朝学習の実施			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業ノートをまじめにとり、学習課題について、知識・技能を活用しようと、まじめに取り組むことができる。 ●学習課題に対して、思考・判断して、筋道をたてて文章を書く力や表現することを苦手としている。	・学習課題に対して、知識技能を活用させながら、粘り強く考え、根拠を示しながら、自分の考えを表現することができる。	・アクティブラーニングの手法を取り入れた授業を行う中で、自力解決の時間の確保と話し合いや発表の場を設ける。 ・各教科において、文章を書く機会を増やし、条件にあった表現力を身につけさせる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○集団生活のルールを守って生活することができる。また、朝学習に静かに取り組むことができる。 ●わからないことをそのままにする傾向があり、宿題等、提出物の締切を守れない生徒がいる。また、家庭学習において、主体的・継続的な習慣が確立されていない。	・チャイムで授業が開始でき、授業には準備を整えて取り組むことができる。 ・家庭学習の方法を身につけ、課題や自主学習に積極的に取り組むことができる。	・学習のめあてを授業の始めに明示すると共に、学習のふりかえりを全教科で実践し、学習の自覚化をさせる。 ・宿題一覧表を教員と生徒が情報を共有しながら、計画的な家庭学習につなげる。			

令和2年度 学力向上ロードマップ

